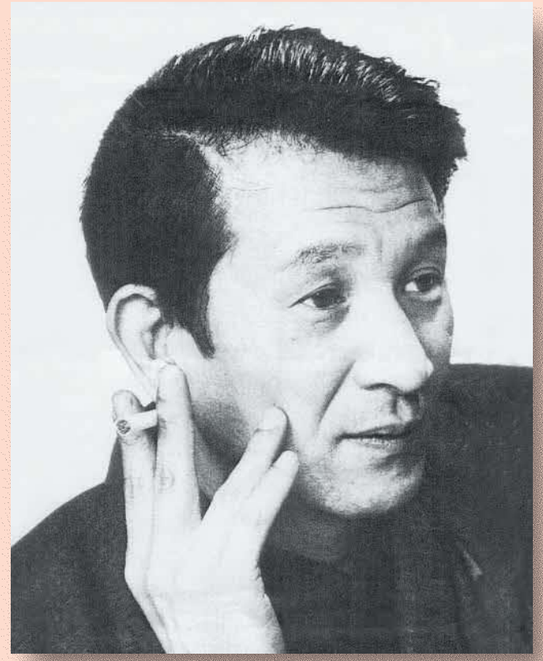
小説

長谷川（はせがわ） 修（おさむ）



下関市

（1926～1979）

提供：長谷川郁美

長谷川修は、かつて大江健三郎が登場した『東大新聞』に作品を投稿。第八回五月祭賞の佳作に入選。佳作が不本意だったか、同じ作品を『新潮』の同人雑誌賞に応募する。こうして「キリストの足」は、昭和三十八年『新潮』十二月号に掲載され、注目を浴びた。昭和四十年代、「真赤な兎」「孤島の生活」など四作品が、毎年のように「芥川賞候補」にノミネートされ、話題作を発表。その手法の斬新さ、不条理性、思いがけない着想の離れ業は、ユニークな長谷川文学を印象づけた。五十三歳の生涯は、円熟期の惜しまれる急死だった。

（武部忠夫）

【主な著作】

『ふうてん学生の孤独』（新潮社、昭和44年）

『まぼろしの風景画』（新潮社、昭和47年）

『住吉詣で』（六興出版、昭和55年）